

オンプレミス製品からElements製品への移行について for Linux

2025年10月2日

W / T H
secure

WithSecure Elements全体イメージ

専用管理サーバー導入不要



管理者

どこからでも
アクセス



WithSecure Elements Security Center
(ブラウザベース)



自動適応(OSによって、機能が異なります)

パターンファイル、プロファイル、EPPソフトウェアバージョンアップ、セキュリティパッチ



社内LAN

マルチプラットフォーム対応



支社/海外

多拠点も一元管理

Elementsの利点

- ◆Elements Security Centerで管理を行うため、ローカルネットワークに管理サーバが不要になります。
- ◆EPPのインストーラはElements Security Centerからダウンロードできます。
 - ※BusinessSuite製品についてはWithSecureウェブサイトからjarファイルをダウンロード後PolicyManagerでインストーラを作成する必要がありました。
- ◆Elements Security Centerでライセンスの有効期限や使用状況を確認することができます。
- ◆EDR機能を追加利用したい場合、ライセンス購入後、自動的にEDR機能が追加されます。
 - ※クライアントの再インストールは不要です。

移行前の動作要件/環境の確認について

移行前に動作要件を満たしているか確認をお願いします。

1. 各Agentの動作要件

[WithSecure Elements Linux Protection]

<https://www.withsecure.com/userguides/product.html#business/linux-protection/latest/ja>

[Elements Endpoint Protection]

<https://www.withsecure.com/userguides/product.html#business/psb-portal/latest/ja>

2. 通信環境

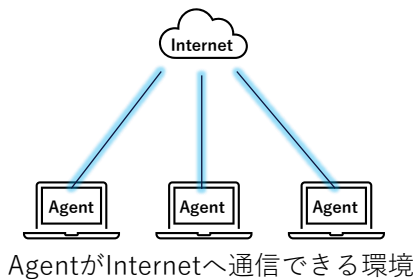
[Community: Network addresses for WithSecure Elements (cloud-managed products)]

<https://community.withsecure.com/ja/kb/articles/31217-withsecure-elements-のネットワークアドレス-クラウド管理製品>

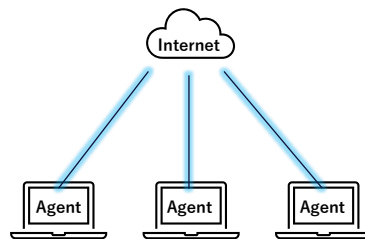
※これまでAgentが通信を行っていたOutbound通信先とは異なります為、制限なく通信が可能か確認ください。

現在の運用構成から移行後の運用構成について

現在の運用構成 1



移行後の運用構成 1



現在の運用構成 2



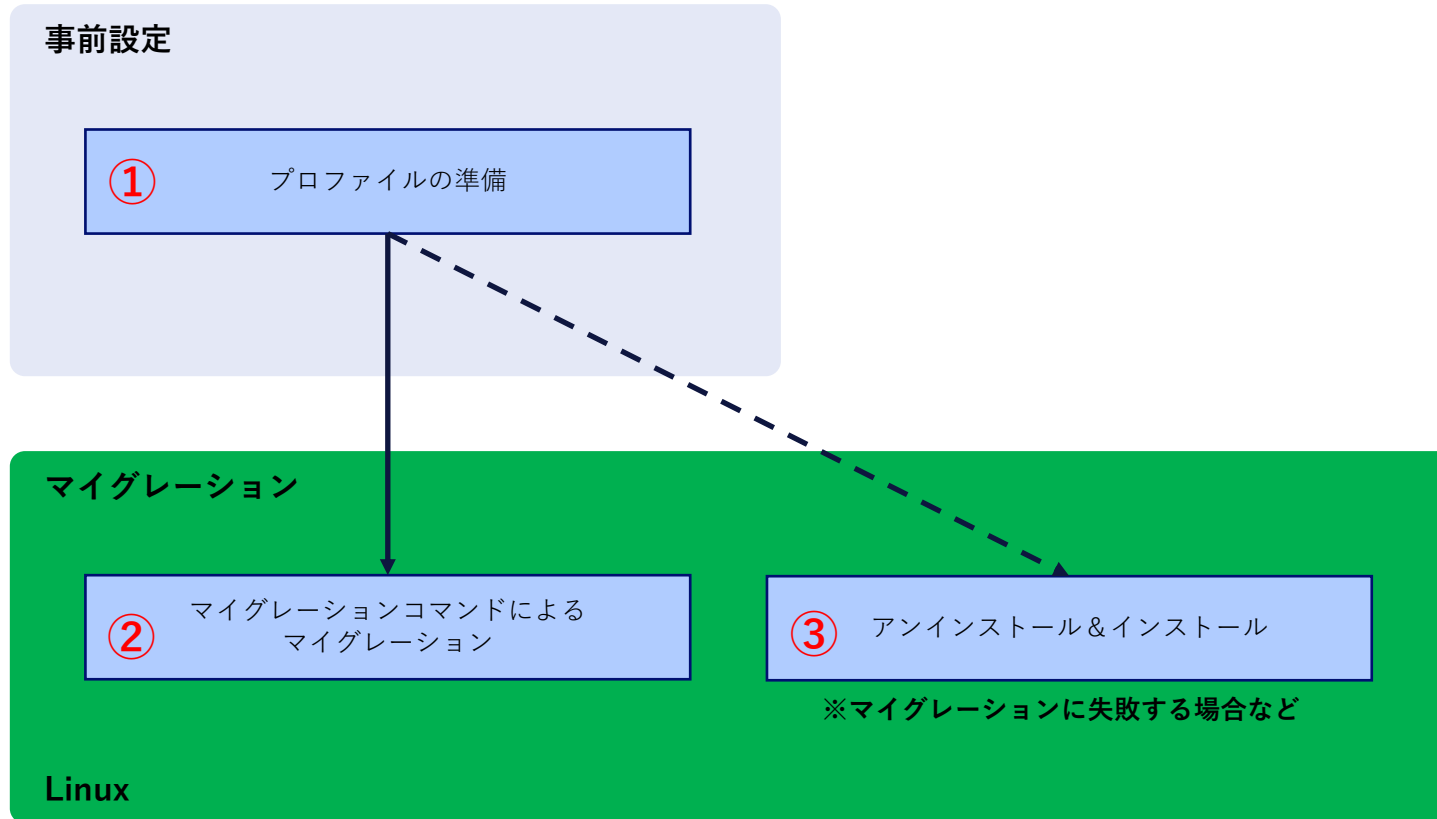
閉域網環境ではご利用いただけません。
各クライアントをインターネット接続可能として頂くか、Connectorのみインターネット接続可能として頂き、そのConnector経由で運用ください。

※Connectorも含めた移行につきましては、以下の総合移行マニュアルをご参照ください。

https://f-secure.my.salesforce.com/sfc/p/b0000000JXpV/a/av000001Cltr/eN5yTdq77uV.LihkhD.cX.55llmE9KU_jsG_VwZCgbQ

移行フロー概要

・現在の運用構成 1 ⇒ 移行後の運用構成 1



※①～③をクリック頂きますと対象の手順へジャンプします。

① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step1：ESCにログインし、セキュリティ構成>プロファイル>Linuxの順にクリックしますとLinux用プロファイル一覧が表示されますので、“WithSecure™ for Linux”の右端部の[⋮]>クローンをクリックします。

The screenshot shows the W/Elements™ interface for managing security profiles. The left sidebar contains navigation options like Home, Environment, Events, Security Configuration, Profiles, Automatic Actions, Scans, Reports, Management, and Security Services. The main area displays a list of profiles under the 'Linux' category. A context menu is open over the 'WithSecure™ for Linux' profile, showing 'Clone' and 'Delete' options.

プロファイル名	タイプ	説明	プロファイル所有者	指定したデバイス	アクション
20210514			Konary_L3	0	⋮
20250205	generic	Profile for Linux hosts. This profile does not configure all security features by default. Configure the security settings based on the requirements for Linux hosts in your network.	Konary_L3	0	⋮
20250719		Profile for Linux hosts. This profile does not configure all security features by default. Configure the security settings based on the requirements for Linux hosts in your network.	Konary_L3	1	⋮
ForMigration			Konary_L3	0	⋮
LS20250515			Konary_L3	2	⋮
Test_for_och			Konary_L3	0	⋮
WithSecure™ for Linux		Profile for Linux hosts. This profile does not configure all security features by default. Configure the security settings based on the requirements for Linux hosts in your network.	WithSecure	0	⋮

① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step2：プロファイル名、タイプ（任意）、説明（任意）を入力します。

LINUXのプロフィール。以下にプロフィール名を設定します。 [...](#)

🔍 プロファイルを検索

説明

一般 ①

プロフィール名

タイプ

説明

Profile for Linux hosts. This profile does not configure all security features by default. Configure the security settings based on the requirements for Linux hosts in your network.

W / T H
secure

① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step3：設定する項目をクリックし設定を行います。

LINUXのプロフィール。以下にプロフィール名を設定します。 ⋮

🔍 プロファイルを検索

一般

説明

エンドユーザーの権利

ベーシック

一般

ウイルスのリアルタイムスキャン

マニュアルスキャン

完全性検査

一般

このタブには、WithSecure Elements Agentのセキュリティ機能で共有される設定が含まれています。

インターネット接続 ⓘ

HTTP プロキシを使用

HTTPプロキシホスト localhost

HTTPプロキシポート 3128

HTTPプロキシユーザー名

HTTPプロキシのパスワード Password

Confirm password

自動更新 ⓘ

自動更新を有効にする

アップデートを適用 受信時に

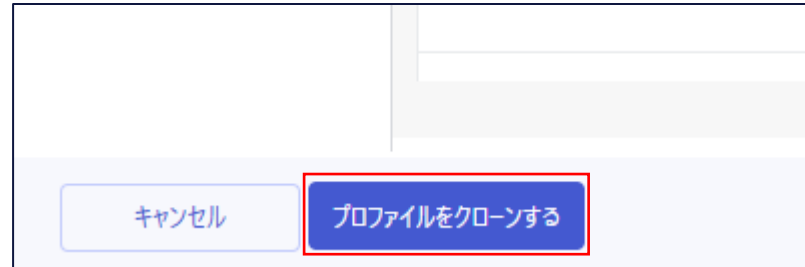
アップデート後に警告を送る

キャンセル プロフィールをクローンする

① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step4 : 設定が完了したら[プロファイルをクローンする]をクリックします。



※リアルタイムスキャンするファイルやフォルダはデフォルトでは未設定となっていますので、必ずスキャン対象を設定してください。



① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step5：プロファイルが作成され画面左上にプロファイル名やプロファイルIDを確認できます。
インストール時にプロファイルを指定する場合にはこのプロファイルIDをメモしてください。
その後、画面右上のXをクリックして閉じますとプロファイル一覧に戻り作成されたプロファイル名を確認できます。



※プロファイルを修正する場合には、対象のプロファイル名をクリックしてください。



① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step6：利用するプロファイルが1つのみの場合には、インストール時に適用されるデフォルトプロファイルを指定しておくことでインストール時に省略できます。デフォルトプロファイルを指定する場合には、Step7以降を実施します。（されない場合にはStep6でプロファイルの設定終了です）

Step7：プロファイル>プロファイルの指定ルールをクリックし、デフォルトルールのLinux行右端の[...]>“編集”をクリックします。

プロファイル

Windows Windows Server Mac Linux モバイルデバイス Connector : **プロファイルの指定ルール** Policy Managerから移行 (PILOT)

アウトブレイクルール

順序	条件	クライアントタイプ	プロファイルを指定する	アセットグループを割り当てる	ラベルを追加する	説明	アクション
↑	アウトブレイクルール	ルールがありません					

プロファイルの指定ルール

順序	条件	クライアントタイプ	プロファイルを指定する	アセットグループを割り当てる	ラベルを追加する	説明	アクション
↑	カスタムルール	ルールがありません					
↑	デフォルトルール						
1	すべて	Windowsワークステーション	Windows Client 用プロファイル				...
2	すべて	Windowsサーバー	WithSecure™ Server				
3	すべて	Linux	WithSecure™ for Linux				...
4	すべて	Mac	WithSecure™ Office for Mac (open)				...
5	すべて	モバイル デバイス	WithSecure™ mobile (open)				...
6	すべて	Connector	WithSecure™ Elements Connector				...

① プロファイルの準備

[プロファイルの準備]

Step8：“プロファイルを指定する”にて、デフォルトプロファイルにしたいプロファイルを選択して[保存]を押します。
下部に再度確認画面が表示されますので[変更内容を保存]ボタンを押しますと以下の例の通りデフォルトプロファイルが変更されます。

ルールを変更

新しいプロファイルの割り当てルールは、新しいデバイスに自動的に適用されます。

条件*

すべて

値*

any

クライアントタイプ*

Linux

プロファイルを指定する*

WithSecure™ for Linux

アセットグループを割り当てる

ラベルを追加する

説明

キャンセル 保存

ルールが変更されました

プロファイル指定ルールは、配置された順に実行されます（最初に一致するルールまで）。一致するカスタムルールがない場合は、デフォルトルールが適用されます。

保存後、すべてのデバイスのルールを評価する

キャンセル 変更内容を保存

	デフォルト	デフォルト	デフォルト	デフォルト	デフォルト	デフォルト	デフォルト
1	すべて	デフォルト	Windowsワークステーション	Windows Client 用プロファイル			...
2	すべて	デフォルト	Windowsサーバー	WithSecure™ Server			...
3	すべて	デフォルト	Linux	ForLinux			...
4	すべて	デフォルト	Mac	WithSecure™ Office for Mac (open)			...
5	すべて	デフォルト	モバイル デバイス	WithSecure™ mobile (open)			...
6	すべて	デフォルト	Connector	WithSecure™ Elements Connector			...

※既にインストールされているデバイスは影響を受けません。

②マイグレーションコマンドによるマイグレーション

[Linux端末へのマイグレーションコマンドによるマイグレーション]

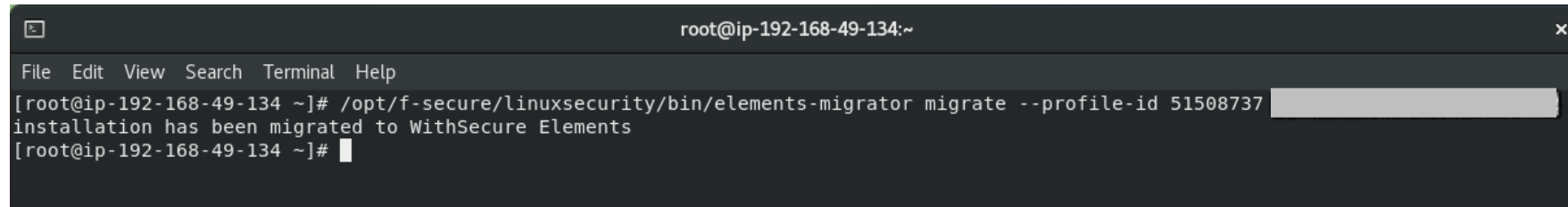
Step1：以下の通り、Linux端末上でroot権限でマイグレートコマンドをサブスクリプションキーを指定して実行する事により移行できます。

```
/opt/f-secure/linuxsecurity/bin/elements-migrator migrate [SUBSCRIPTION-KEY]
```

上記コマンドに「--profile-id」オプションを付けて実行することで、予め作成したプロファイルを割り当てることができます。

```
/opt/f-secure/linuxsecurity/bin/elements-migrator migrate --profile-id [PROFILE-ID] [SUBSCRIPTION-KEY]
```

※プロファイルIDを誤って指定すると、デフォルトプロファイルが割り当てられます。

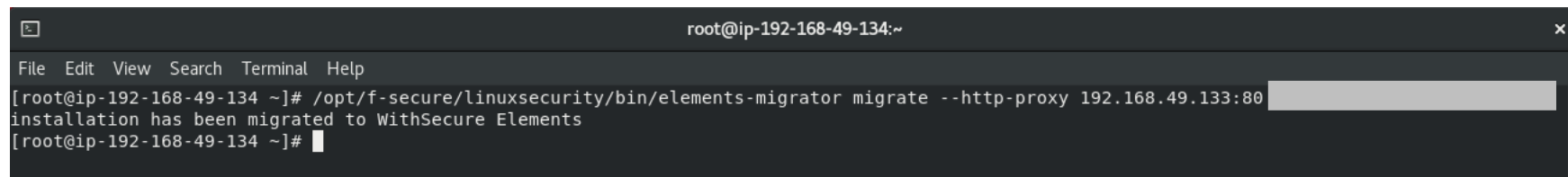


```
root@ip-192-168-49-134:~  
File Edit View Search Terminal Help  
[root@ip-192-168-49-134 ~]# /opt/f-secure/linuxsecurity/bin/elements-migrator migrate --profile-id 51508737 [REDACTED]  
installation has been migrated to WithSecure Elements  
[root@ip-192-168-49-134 ~]#
```

HTTPプロキシを経由でインターネット接続する環境では、「--http-proxy」オプションを付けてマイグレーションを実施してください。

```
/opt/f-secure/linuxsecurity/bin/elements-migrator migrate --http-proxy [HTTPプロキシアドレス:ポート番号] [SUBSCRIPTION-KEY]
```

※「--http-proxy」オプションはLinux Security 64 update (version 12.0.506)以降でサポートされたオプションです。



```
root@ip-192-168-49-134:~  
File Edit View Search Terminal Help  
[root@ip-192-168-49-134 ~]# /opt/f-secure/linuxsecurity/bin/elements-migrator migrate --http-proxy 192.168.49.133:80 [REDACTED]  
installation has been migrated to WithSecure Elements  
[root@ip-192-168-49-134 ~]#
```

②マイグレーションコマンドによるマイグレーション

[Linux端末へのマイグレーションコマンドによるマイグレーション]

Step2：ESCにて、環境>デバイスをクリックしデバイス一覧に対象クライアントが表示されておりましたら移行は完了です。



root権限で以下のコマンドを実行しスタータスが“active”であれば動作している事を確認頂けます。

```
/opt/f-secure/fsbg/bin/master-switch status
```

```
konary@almalinux9:/home/konary
[konary@almalinux9 ~]$ su
パスワード:
[root@almalinux9 konary]#
[root@almalinux9 konary]# /opt/f-secure/fsbg/bin/master-switch status
active
[root@almalinux9 konary]#
```

[Linux Security 64 から WithSecure Elements への移行]

https://www.withsecure.com/userguides/product.html#business/linux-security-64/latest/ja/migrating_ls64_to_withsecure_elements-latest-ja

③ アンインストール & インストール

[Linux端末へのアンインストール & インストール]

Step1 : root としてLinux端末にログインします。

アンインストール前に詳細について以下のユーザガイド「23 製品をアンインストールする」を参照ください。

<https://www.withsecure.com/userguides/product.html#business/linux-security-64/latest/ja>

※古いバージョンのLinux Security 64をお使いの場合には注意事項があります。

Step2 : 次のアンインストールコマンドを実行しLinux Security 64をアンインストールします。

RHELベースのディストリビューション : `rpm -e linuxsecurity-installer`

Debianベースのディストリビューション : `dpkg -r linuxsecurity-installer`

Step3 : 念のため、以下のコマンドを実行し確実に削除します。

```
rm -rf /opt/f-secure /etc/opt/f-secure /var/opt/f-secure
```

Step4 : Linux端末を再起動します。

Step5 : システム要件を再確認ください。必要な依存関係が不足している場合にはインストールしてください。

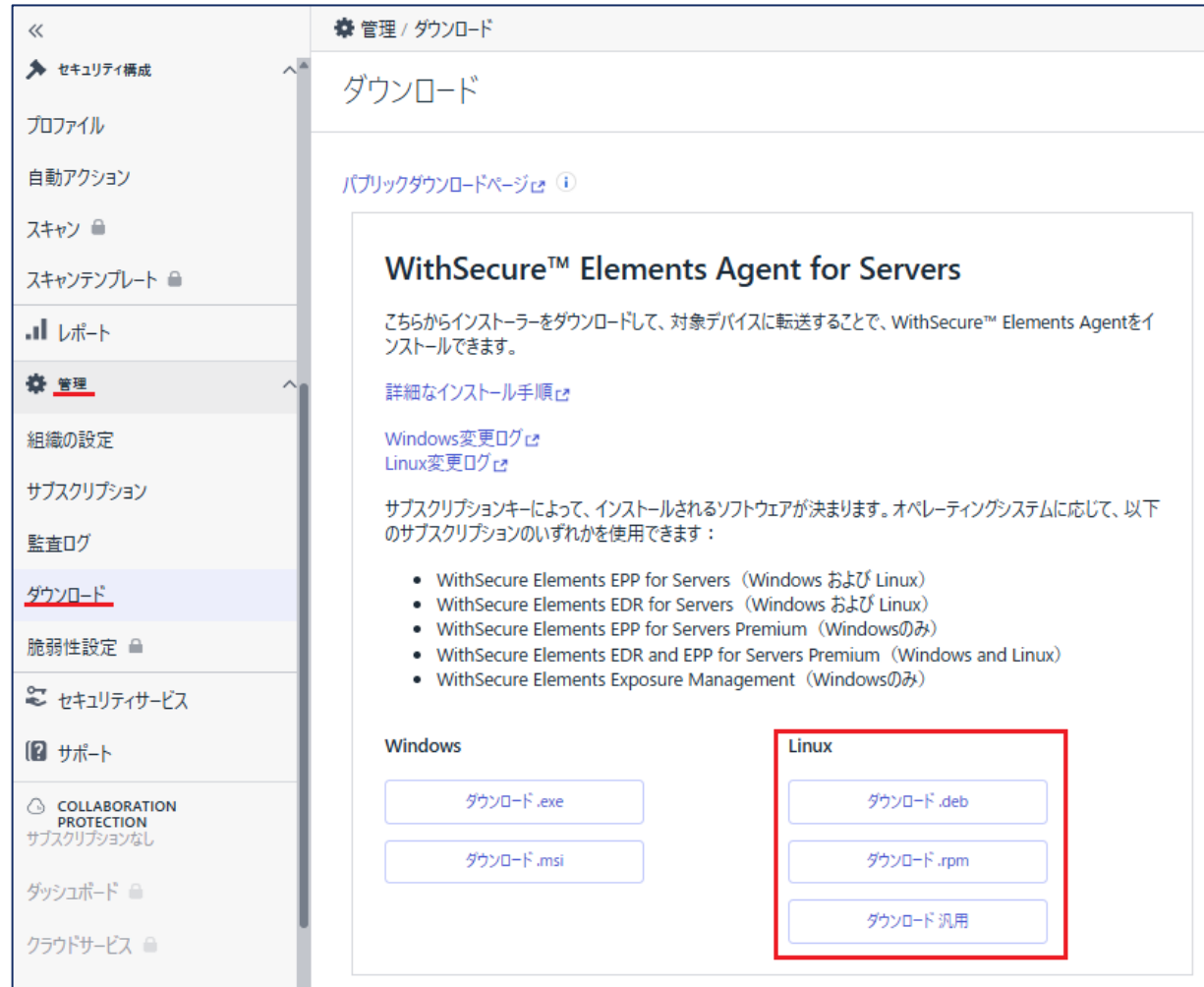
ユーザガイド :

<https://www.withsecure.com/userguides/product.html#business/linux-protection/latest/ja>

③ アンインストール&インストール

[Linux端末へのアンインストール&インストール]

Step6 : Linux用インストーラをESC>管理>ダウンロードまたはパブリックダウンロードページから入手しLinux端末へ配置します。



管理 / ダウンロード

ダウンロード

パブリックダウンロードページ ①

WithSecure™ Elements Agent for Servers

こちらからインストーラをダウンロードして、対象デバイスに転送することで、WithSecure™ Elements Agentをインストールできます。

[詳細なインストール手順](#)

[Windows変更ログ](#)
[Linux変更ログ](#)

サブスクリプションキーによって、インストールされるソフトウェアが決まります。オペレーティングシステムに応じて、以下のサブスクリプションのいずれかを使用できます：

- WithSecure Elements EPP for Servers (Windows および Linux)
- WithSecure Elements EDR for Servers (Windows および Linux)
- WithSecure Elements EPP for Servers Premium (Windowsのみ)
- WithSecure Elements EDR and EPP for Servers Premium (Windows and Linux)
- WithSecure Elements Exposure Management (Windowsのみ)

Windows	Linux
ダウンロード .exe	ダウンロード .deb
ダウンロード .msi	ダウンロード .rpm
	ダウンロード 汎用

パブリックダウンロードページ：

<https://www.withsecure.com/en/support/download>

ELEMENTS AGENT FOR SERVERS

Download for Windows (.EXE) →

Download for Windows (.MSI) →

Download for Linux (.DEB) →

Download for Linux (.RPM) →

Download for Linux (Generic/.Tar) →

Business Suite transition support package (.JAR)



③ アンインストール&インストール

[Linux端末へのアンインストール&インストール]

Step7: 次のインストールコマンドを実行します。

RHELベースのディストリビューション: `rpm -Uvh linuxsecurity-installer.rpm`

Debianベースのディストリビューション: `dpkg -i linuxsecurity-installer.deb`

Step8: 次のコマンドを実行して、製品をアクティブにします。

`/opt/f-secure/linuxsecurity/bin/activate --psb --subscription-key [SUBSCRIPTION-KEY] --profile-id [PROFILE-ID] --http-proxy=[Host:Port]`

※SUBSCRIPTION-KEYには、Linux用に割り当てられたサブスクリプションキーを指定してください。

※プロファイルを指定する場合には、“`--profile-id 12345678`”の様にプロファイルIDを指定してください。

※Proxy Serverを経由する場合には“`--http-proxy=192.168.213.200:80`”の様に指定してください。



③ アンインストール&インストール

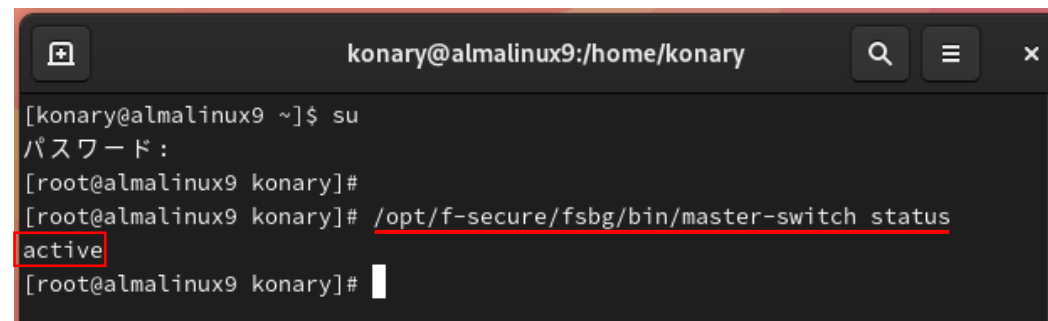
[Linux端末へのアンインストール&インストール]

Step9 : ESCにて、環境>デバイスをクリックしデバイス一覧に対象クライアントが表示されておりましたら移行は完了です。

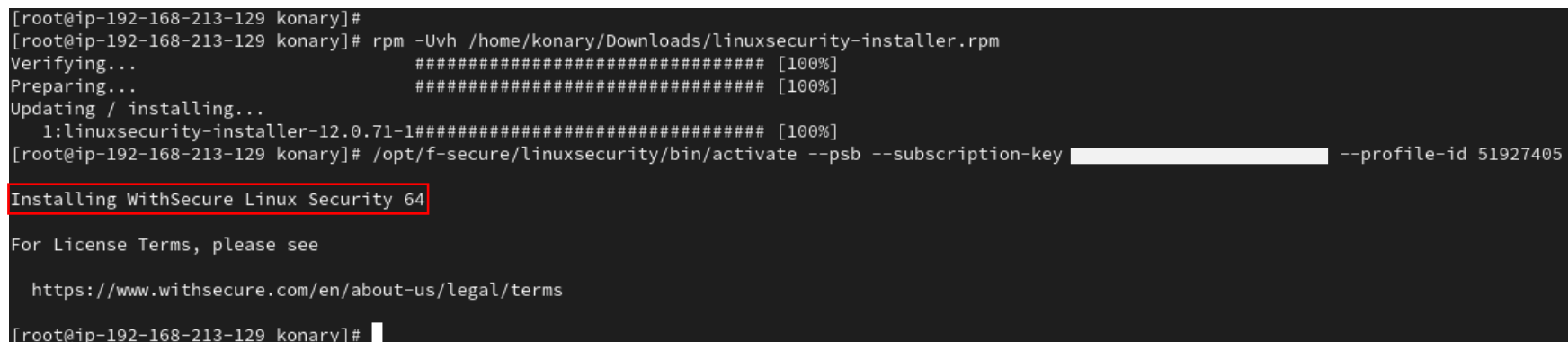


root権限で以下のコマンドを実行しスタータスが“active”であれば動作している事を確認頂けます。

`/opt/f-secure/fsbg/bin/master-switch status`



※Step8で製品をアクティブにした際に、以下の通り“Installing WithSecure Linux Security 64”と表示されますが、問題なくElements Linux Protectionとしてアクティブ化されます。



※マイグレーションに関するお問い合わせ先

[Top](#) ^

[マイグレーションに関するお問合せ先]

お問合せ先メールアドレス：japan@withsecure.com

お問合せ時の件名：[2025年8月27日開催ウェビナーについて]